

校報 北斗冴ゆる

文責：一関市立舞川中学校 校長 今川 晋

2025年3月3日(月)

～逃げずばやまじ～

一関市立舞川中学校
学校だより No.13



～がんばれ3年生!!～

3年生もいよいよです。まずは 体調管理その一点に尽きるかなと思います。ここまで来たら、むやみに焦っても仕方ありません、できることはやったのですからあとは運を天に任せて当日を無事に迎えるだけでよいのです。

面接のある一関工業、千厩高については空き時間を使って、面接練習に取り組んでいます。素直で誠実な印象を感じますから自信をもって臨んでほしいと思います。どんな相手にも変わらず対応できるように、ご家庭でも面接練習に付き合っただけでいいと思います。健康に留意し、感動のフィナーレを皆で迎えられるよう、皆が1分1秒を大切に過ごしてほしいと強く願います。

応援しています! 【※上の写真は、皆さんの合格祈願をしていただいていたお札です。】



～第3回舞川中学校運営支援協議会～

コミュニティースクールとも呼ばれるこの会は、地域の学校を支援するためのグループで行政の方針に基づいて2年前に立ち上げました。この協議会では、教師や保護者、地域住民が集まって、学校の教育方針や運営に関する情報交換や意見交換を行います。運営や教育について話し合い、より良い教育環境を作ることを目指します。



去る20日(木)に今年度最後の会合を行いました。左の写真は、会合前に1年理科の授業を参観していただいた時の様子です。参加者の舞川小学校の佐藤副校長先生は、「立派になったなあ。うれしいです」と目を細めていらっしゃいました。

会合では、学校評価アンケートと生徒質問紙の結果を踏まえながら、今年度の反省と来年度の運営方針について委員の皆さんからご意見をいただき、了承いただきました。

※今年度の学校評価アンケートと生徒質問紙の結果とその分析については、裏面に掲載していますのでご覧ください。これをもとに現在来年度の学校運営計画を教職員で検討しています。決定したものは来年度のPTA総会(4/19を予定)で提示します。ご理解とご協力をお願いいたします。

～R6 年度 学校評価アンケートと生徒質問紙の回答結果～

学校評価アンケートから	今年度 目標値	生徒 割合%	保護者 割合%
①学校は生徒の気持ちを大切に、温かい目を持ちながら指導しているか。	80	92	88
②人が困っているときは進んで助けようとしている	90	91	80
③学校はいじめの未然防止に努めている。	90	94	83
④学校はいじめの早期発見に努めている。	85	89	86
⑤学校は教育相談を充実させ、常に生徒の声を聴くように努めている。	90	98	86
⑥授業の内容が分かる。	85	83	50
⑦家庭学習にしっかり取り組んでいる。(1日2時間以上)	40	29	66
⑧地域文化や伝統芸能の大切さを理解しようとしている。	80	78	88
⑨地域の一員として、地域に貢献しようとしている。	80	75	67
⑩学校以外でもあいさつを心がけている。	80	83	64

県学調質問紙から(生徒のみ回答)	今年度 目標値	生徒 割合%
⑪学校生活が楽しい	80	68
⑫将来の夢や目標を持っている。	80	64
⑬体力運動能力検査 A～C 段階の評価を受けている。	50	64
⑭肥満傾向である。(県の指標による)	25	32

①～⑤は、生徒指導の教育相談に関することです。本校では奇数月ごとに生徒にいじめアンケートを実施し、それをもとに学級担任が生徒全員と面談を行っています。心配な場合はさらにスクールカウンセラーにつながります。また、生徒支援ミーティングを随時開催して、組織的な対応を続けたことが特に高い評価につながったものと思われます。

⑥は、学習についての記述です。生徒の評価は目標値並みとなっていますが、教科別の集計では、英語が60%を切っていました。英語担任が長期間不在となり、十分に生徒の興味関心を満たすような授業を提供できなかったことが原因と思われる。保護者の皆さんの評価もそれに起因する部分が多いのではないかと推察します。学校としても県と市教委の対応に委ねるしかなく、結果としてご迷惑おかけしているところです。大変申し訳ありません。

また⑦は、いわゆる家庭学習への取り組みについてです。まったく取り組んでいない生徒はいませんでした。中学生であれば学校として毎日2時間程度は家庭学習してほしいところです。授業で「わかった」と思っても、それがテストで「できた」につながらないのは、話す・書くという反復練習が不足しているためと考えます。基礎学力の定着を第一に、生徒が自主的に家庭学習に取り組めるような体制づくりは来年度の学校課題と考えます。

⑧～⑩は家庭教育による部分でしょうか、舞川地区は全県的に見ても社会教育事業が充実した地域で、市民センターが中心となり大変充実した事業展開をしています。伝統芸能指導をはじめ、地区民文化祭や烏兎が森の看板づくりなど、生徒も地域の一員としてもがんばっています。今年度から始まる公立高校の特色入試は、生徒の地域活動や奉仕活動を重視する傾向があります。学校としては市民センターとも連携しながら生徒の地域参加を促していきたいと思えます。

⑪⑫については、その一因に部活動をはじめとする生徒の課外活動の選択肢が少ないことや交友関係が狭いことなどがあると考えます。生徒が達成感を味わえるような特別活動や総合学習、行事等で対応していきたいと考えています。最後は⑬⑭についてです。生活習慣病の主因となる運動不足からくる肥満割合が大変高い傾向にあります。生徒会による「朝ラン」や体育科による「合同トレーニング」を運動習慣の確立のきっかけづくりとしていますが、運動の絶対量は不足しており、大変心配しているところです。PTA の皆さんとも相談しながら対策を講じていきたいと思えます。